

皆さんお元気ですか。

2017年1月の出来事を綴っています。ご笑覧くださいませ。



平成29年(2017年)、元旦に3人のニカラグア青年隊員が泊まりにきた。3人ともこの国に赴任した時期は異なる。一人は、2015年1月、二人目は2015年9月、そして三人目は、2016年3月。三人の話を聞いているとニカラグアボランティアの心の動きを感じる。一人は、2年間の任期を終えて、二日後に帰国する。任期終了による安堵と、同時に今後の日本での未知の人生をどう生きようか不安と希望で複雑な感じ。二人目は、ニカラグアでの生活にも慣れ、この国の現実と自分の活動との限界を感じつつ、今後の残りの任期の10か月間をどのようにするか、少し意欲も低下ぎみ。(これは私の気持ちでもある)。三人目は、就任して間もなく、自分の活動も起動に乗りつつ、戸惑いもなく挑戦していける意欲が感じとられる。私は今まで、同期以外のボランティアとほとんど話す機会がなかったが、異なる次隊三人に会えたことで、任期二年間の過去と未来を見たような感じがした。



1月4日、今日ほどこちらの販売定員の対応が嫌になったことはない。2月8日からパナマ講習会に参加するために、パナマまでの高速バスの切符を買いにいった。生徒の一人が通訳としてきてくれた。この通訳者は、ニカラグア観光のガイドもしている人だ。私は、マナグア市からパナマまでの日程をメモった紙を通訳者に見せた。彼はそれを見せながらチケットの予約をお願いした。定員と通訳者は約30分以上話している。店員は、コンピュータに入力しているが、私が希望する出発時間と到着時間が合わないのか、中々進まない。途中で私が通訳者にパナマからマナグアに帰る途中で、コスタリカのサンノゼに泊りたいので、サンノゼでのバス到着時間を教えてほしいと言った。二人はまだ話している私の質問には答えてくれない。埒が明かないので、私と通訳者は、店員との問答を諦めて待合室で事情を聴くことにした。通訳者にもう一度私の希望を説明した。そして分かった。パナマからマナグアまで、途中のサンノゼは深夜2時か3時ころに到着するので、ホテルには一泊できないと。



しかし、なんとかバスの予約は取れたので、タクシーで家まで帰ることにした。そしたら途中で、道場の生徒とばったり彼の家の前であった。久しぶりに彼と（彼はパイロット）話した。そして、新道場での畳購入が上手く行かない。畳購入業者に見積書を依頼しても返事がない。また、別の業者のマットは高く、全部で 2500 ドルくらいする。配属先の道場長や幹部は協力してくれない。生徒数も少なくなってきた。私は思いどおりに行かないので、少し諦めかけていた。私の事情を聞いた彼は、友人に電話してくれた。そしたらその友人は、アメリカのロスから搬入した中古の畳を持っているから見に来いとのことだった。早速、私たちは見に行き、そしてその畳を新道場に敷いた（左写真）。16枚の畳で床の上で滑らないか確認した。問題はない。畳一枚は 25 ドル。49枚を購入することで、1,225 ドルの見積書を早速作ってくれた。うれしかった。諦めないでよかった。ニカラグア人は無責任で、サービス対応も悪い人が多いが、決して諦めてはいけないことを実感した。ニカラグアでは粘り強さが肝要である。次は、購入のための申請書作成だ。



1月5日バスチケットのキャンセルは大変だった。昨日、何とか手にいれたバスの予約切符だったが、今日、夜中のバス移動は、禁止されていると JICA の調整員に言われた。あちゃ〜。ニカラグアでは、一旦払ったお金（5455 コルドバ=¥21,000）は戻ってこないとのこと。例え一か月前の予約にしても、バスの座席はキャンセルできても返金はない。貰ったバス時刻表のパンフレットには、返金不可の記載があることを後で分かった。たまたま家に来ていたスペイン語教師（友達）が、何とかなるからと言って TICA bus 販売店と一緒に連れてくれた。販売店の副店長に、友人が交渉してくれた。私は、スペイン語も英語も分からない。JICA の人だ。ニカラグアのためにボランティアしてくれる。その他、彼女が何を言っているのか私はわからない。2時間ほど折半してくれた。そして、全額ではないが、9割がた戻ってきた。ニカラグアでは返金はある得ないらしい。JICA 調整員にこの事をいったら驚いていた。この国ではどのようにでもなる国か？



1月5日、猫をくれた合気道の生徒（名前はなぜかダーリン）と一緒に近くの動物病院に行った。うちの猫（子猫の名前はカーリン）が生まれて約2か月が過ぎたので、狂犬病予防注射を受けに行った。最初に、獣医さんは、子猫の肛門に体温計を刺して、体温を計った。つぎに子猫の背骨あたりに注射した。最後に錠剤を口に入れた。終始子猫が以外におとなしなかったのには驚いた。この注射を数回にわけてうつとのこと。今日は、初回で診療費は、13ドルだった。別の日に今度は、子猫のパイプカットもしなければならない。この猫は大きくなるのが早い。餌もよく食べるようになった。一体どれくらい大きくなるのだろうか。いつも私のそばによってきて、なぜは私の指に噛みつく。しかし、喉をごろごろならしながら私の足によってくると何だか憎めない。



1月8日、合気道の幹部4人と共に朝食を我が家でとった。生徒の一人が「ナカタマル」という料理も持ってきてくれた。この「ナカタマル」は、ニカラグアの郷土料理で週一回は、各家庭で、朝食に「ナカタマル」、「パン」、そして「コーヒー」と一緒に食べるとのこと。私は今回初めて食べる。作り方は、バナナの皮で中身の具を包む。具は、豚肉、米、トマト、ポテトなど。表面は、トーモロコシを練ったもので覆われていた。これを一晩大きな鍋でむすらしい。今回は生徒（名前はフランシス）の義理の母が作ったホームメイドとのこと。さて、味はと言うと、こちらの人というほどうまくなかった。あまり味がしないからだ。良いともまずいとも判断ができなかった。特に甘いとも、塩っぱいとも、すっぱいとも言えなかった。ただ、炭水化物をたくさん食べているような気がした。しかし、コーヒーに合うようだ。ニカラグアの代表的な料理にめぐり会えたことがうれしい。また、生徒が料理とコーヒーを持ち込んでくれたことがすごくうれしかった。今までないことだ。